

<「知るっば!久留米」 令和2年4月2日(木) 12:30~放送分>

ドイツさんと久留米 ～第1回～ ドイツさんとビール

<ゲスト： 市文化財保護課 主査 小澤太郎さん>

坂本 MC (以下「坂本」)

「知るっば!久留米」ナビゲーターの坂本豊信です。今月はスタートにあわせて「ドイツさんと久留米」のシリーズでお送りしていきます。ゲストはこの方です。

ゲスト:小澤さん (以下「小澤」)

こんにちは。久留米市役所文化財保護課の小澤太郎と言います。よろしくお願ひします。

坂本 第1回のテーマは「ドイツさんとビール」です。まずは今回のテーマのドイツさんなんだけれども、ドイツさんって誰なんですか？

小澤 「ドイツさん」なじみのない言葉、呼び方ですよ。ドイツさんというのは実は日本にやってきたドイツ人捕虜のことなんです。

坂本 へえ。いつの頃ですか？

小澤 だいたい100年ぐらい前です。第1次世界大戦が当時おこっていたんですよ。その時に国内で最初に、最大規模の収容所が久留米に作られたんですよ。

坂本 ほう。久留米にあった？それはどんな施設だったんですか？

小澤 これはですね、チンタオ(青島)という場所が中国にあるんですが、「チンタオビール」なんかで有名なチンタオ。そこで第1次世界大戦の時に久留米から兵隊さんたちがいっぱい行ってドイツ軍と戦ってるんですね。そこで捕まった捕虜、捕らえられた人たちを連れてきて、収容する施設が久留米にあったんです。

坂本 ほう。久留米に連れてこられて、久留米で捕虜生活が始まる。

小澤 そうなんです。

坂本 そういうことなんですね。で、ドイツと言えはですよ、オクトーバーフェストなんかでビール!ですが、久留米にいたときは、まさかお酒とかビールとか飲めないでしょう？

小澤 これがですね…、飲めるんですよ。自由に飲める。

坂本 捕虜でも?飲める?

小澤 飲めます!飲めます!

坂本 捕虜なのに飲める?あ、捕虜なのによって言ったら失礼かな。

小澤 意外でしょう?「捕虜」という言葉のイメージからほど遠いでしょ?でも、ビールはみんな飲めていたんです。

坂本 ほお…。

小澤 ちょうど大正時代、100年前に門司にサクラビールというビール会社が出て…。

坂本 あんまり聞かない名前ですね。

小澤 はい。今はですね、サッポロビールになっちゃってて、会社自体がないんですけど、そこがビール生産を開始してて、門司からどんどん鉄道輸送で久留米の方にも輸送するんですよ。

坂本 あ〜。今でいう JR ね。

小澤 JR…。

坂本 昔は国鉄か。

小澤 え〜っと、まだ当時は九州鉄道。

坂本 ああ、国鉄よりもっと前なんですね。

小澤 そうですね。で、どんどん持ってくる。それをドイツさん達はお金持ってるんで…

坂本 え! お金あるんですか?

小澤 はい。お金いっぱい持ってるんです。給料もらえちゃうんですよ。

坂本 捕虜でも給料がもらえるっていう…。

小澤 はい。捕虜でも給料がもらえちゃう。下士官とか士官じゃない人たちでも、衣食住賄ってもらって、本国から寄付とか仕送りとかがやってくるんで、お金持ってるんですよ。

坂本 住むところとご飯は、まあ、タダで…

小澤 タダ。

坂本 住んで、食べさせてもらえる。捕虜だから。それで別にお金がもらえる。

小澤 もらえる。

坂本 お給料とか？本国からの仕送り、義援金とか？

小澤 そうそう、そうなんですよ。お金持ってるんで、みんなの楽しみの一つとしてやっぱビール！ドイツの人はビールが大好きですからね。

坂本 そうすると、収容所の中でビール売ってるわけなんですか？

小澤 売っているんですよ。売店があるんです。売店というか、「酒保」っていうんですけどね、「お酒」を「保つ」と書いて。当時の写真が残ってるんですけど、見てもらうとわかるようにこういう風にですね…ラジオだから見えないんですけど、楽しそうでしょう？酒盛りをしてますよね。で、後ろの棚を見ると、いっぱいビール。ビールが並んでいるんです。サクラビール、麒麟ビール。ずらりと。

坂本 あ、ほんとだ。いっぱい並んでる並んでる！ちょっと、写真がねえ。ラジオだから。ご覧いただけないのがちょっと残念なんですけど。なかなか味わいのある写真ですね。

小澤 ええ。日本人と酌み交わしていますよね。これなんか。

坂本 それは、売ってる人は日本人なんですか？

小澤 そうなんです。日本人の店員が売っている。そして、そこでお金出して買って、こうやって飲んでいるんです。

坂本 おもしろいですねえ。

小澤 すごい消費量ですよ。ビール。

坂本 消費量っていうと、たくさん飲まれていて、それを日本人が売店で売っていたっていうことになると、久留米の皆さんにもかなりいい感じで経済効果みたいなものがあつたりします？

小澤 そうなんですよ。この飲み方が凄いですよね。だから、例えばですよ、1年間の売上を見てみると、あ、ビールの売上なんですけど、また、これが2万円超えているっていうんですよ。

坂本 …ちょっとピンとこないけど。

小澤 ピンとこない？当時の市の予算の十分の一くらい。1割くらい。

坂本 それはすごいね。そんなにビール飲んでたんだ。

小澤 当時の市の予算の一割くらい消費してるんですよ。1年間にビールだけで。だから相当飲んでるなっていうのが分かりますよね。

坂本 それって、1日中飲んでるわけじゃないでしょ？ご飯の時とか、汗かいたら飲んだりしてたんでしょうか。

小澤 ええ、例えばよく飲まれるのは、クリスマスとかドイツ皇帝の誕生日とかイベントごとが多いんですけど、長いんですよ。何日もかけて飲むんで。

坂本 その日だけじゃなくて？

小澤 そう。

坂本 それをお祝いして何日も飲む。酒盛りというか。

小澤 そうなんです。だから、朝、飲み会を初めて昼にまた飲んで、そして午後昼寝するんですよ。そしてまた夕方から飲み会が始まる。

坂本 ビール好きですねえ…！

小澤 ビールずっと飲んでますねえ。宴会終わったあとは、外にビール瓶の山。そういう写真が残っているんです。

坂本 へえ…！そのビール瓶とか今でも残っているんですか？

小澤 そうなんです。実は数年前からその場所を発掘調査していて、場所は国分に医療センターありますよね？あそこの西側、医療センターの駐車場から西側にかけてが収容所だったんですよ。で、そこを発掘調査すると当時のビール瓶なんかが出てくるんですね。

坂本 今と一緒になんですか？ビール瓶って。

小澤 そうそう。本当にそっくり。キリンビールなんか今と全く同じスタイルで書いてある。で、サクラビールはちゃんとサクラのマークが入っている。

坂本　へえ!

小澤　だから、サクラビールたくさん飲んだってという話が当時の日記にも出てくるんですけど、実際に飲んでたってという物的証拠もそうやって出てるんですよ。

坂本　すごいですね。まあ、ビール好きな人達なんだろうなと思ったけれども、楽しみがなかなかないのかな。

小澤　そうですね。衣食住はちゃんと賄いがあって、屋根も壁もついている建物に住んでるけども、一番やっぱりネックは、人がたくさんそこに住んでるのに外に出られないことですよ。お酒は楽しみなんですよね。一つのストレス解消です。

坂本　ストレス解消のためのお酒の力ってことなのかな。

小澤　今でもそういうところありますよね。

坂本　お話はなかなか尽きないんですけども、この「ドイツさんと久留米」しばらくお付き合いいただいて、お送りしていきたいと思います。小澤さん今日はありがとうございました。

小澤　ありがとうございました。